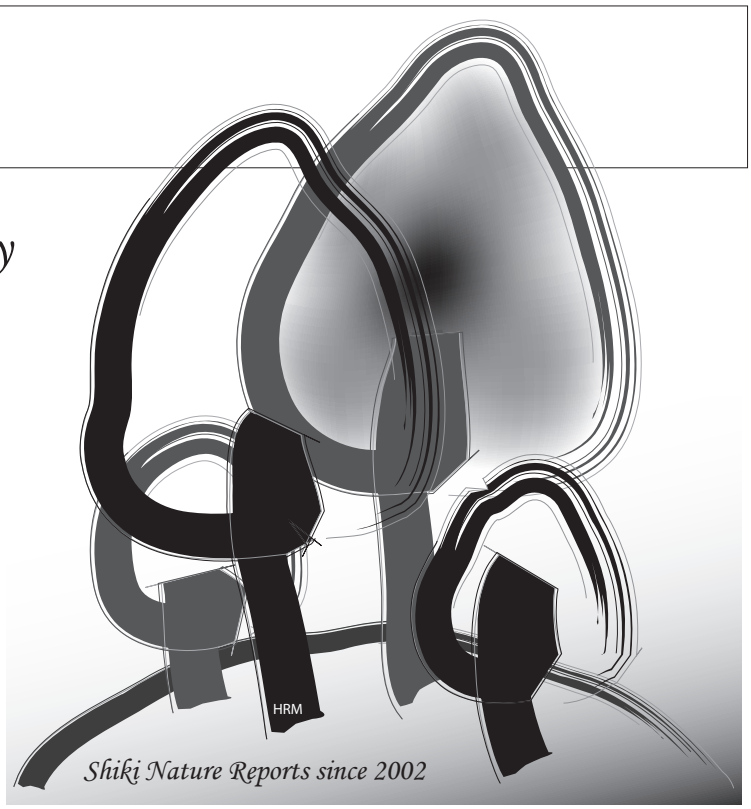
四季 ―志木自然報告―
Shiki Seasonal Nature Reports 2015



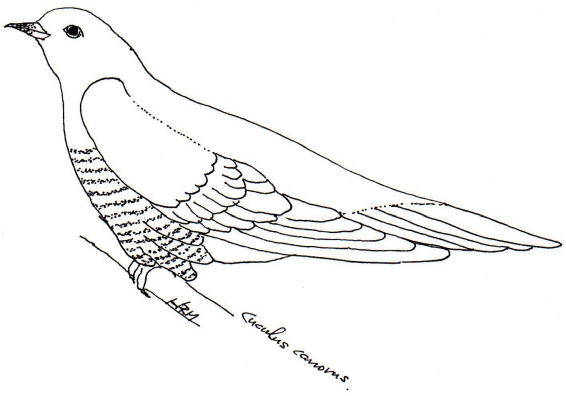

*Cover Story*

## 夏の訪れ「カッコウ前線」

“カッコウ、カッコウ”
体育祭が行われた初夏の陽気だった5月27日の夕暮れ時。本校弓道場横の木立のあたりからカッコウの鳴き声が聞こえてきました。数日前の22日の夕方にもカッコウの鳴き声を耳にしていましたが、場所は志木駅を挟んで新座市側にある立教新座高校のグラウンド付近です。そのときは、まさか市街地にカッコウ？と半信半疑に思いながら通り過ぎ、「自然豊かな志木高へも来てくれないかな…」と思っていました。
市街地に数羽のカッコウが飛来しているとは思えないので、きっとその時鳴いていたカッコウが志木高へ来たのでしょう。その後、29日の夕方にも志木高内でカッコウの鳴き声を聞くことができたので、一週間程この近辺にいたのではないでしょうか。

カッコウは体長35ｃｍ程度の全体的に灰色がかったハトより少し大きめの鳥です。南方から５～６月ぐらいに日本へ飛来してくる渡り鳥（夏鳥）なので、カッコウの鳴き声は夏の訪れを感じさせます。鳴き声がそのまま和名「カッコウ」になっていますが、“カッコウ”と鳴くのはオスだけです。また、カッコウは「托卵」をする鳥です。自分では巣をつくらずに他の鳥の巣に（主にモズ類、ウグイス類など卵の色やヒナのエサが似ている鳥を選びます）卵を産み落とし、仮親（他の鳥）にヒナを育てさせます。その後、カッコウのヒナは短期間で孵化し、もともと巣にあった卵や他のヒナを巣から押し出して自分だけが残り、餌をもらいます。そして、仮親は自分よりも大きなカッコウのヒナであっても餌を与え育て続けるのです。
自然豊かで、多くの種の鳥が棲んでいる森林や草原などではこういった光景が見られるのでしょう。渡り鳥の飛来には好みの緑地の存在が影響します。志木高の豊かな自然はカッコウの好みだったようです。来年も志木高に居ながら「カッコウ前線」で夏の訪れを感じたいものですね。

*(Aramaki)*




カッコウ目
カッコウ科
カッコウ属
和名カッコウ

z/c 353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1[tel: 048-471-1361]
慶應義塾志木高等学校
2015年　初夏号（No.053）
2015年　7月3日発行

＊今回は、国語科の井之浦茉里先生にご寄稿いただきました

## カッコウは呼んでいる？

*Onomatopoeia*

カッコウは、鳴き声が「カッコー」と聞こえることからその名がついたと言われるくらい、鳴き声の存在感が大きい鳥だ。私たちは普通、その鳴き声を「カッコー」と聞くが、柳田國男『野草雑記・野鳥雑記』によると、かつては「早来早来（はやこはやこ）」と聞くことがあったそうだ。柳田は、ある母子が寂しい山道を通っているとカッコウが「早来」と鳴き、母が気づいた時には背負った幼子が死んでいたという古い物語を紹介している。これはあの世へ「早く来い」と呼ばれてしまったのであり、カッコウの鳴き声はおそれの対象だったのだという。

私にはそのようなおそれの感覚はない。きっと童謡『静かな湖畔』のイメージが強いのだろう。湖畔の森から「もう起きちゃいかがとカッコウが鳴く」という歌詞にあるのは朝の清々しさで、そこに不吉な影はない。そういえば、カッコウを題材とした童謡では、初心者のピアノ練習曲になっている『かっこう』も有名である。もとはドイツ民謡で訳者によって歌詞が違うのだが、私が知っているのは「かっこう　かっこう　静かに　呼んでるよ　霧の中　ほーら　ほーら　母さん」というものだ。この後の歌詞に「朝」という語が出てくることもあり、私はこれまで『静かな湖畔』と同様に、早朝の爽やかな光景を思い描いていた。

だが今改めて考えてみると、この歌に登場するのは（森の）霧の中、呼んでいるカッコウ、それを聞く母子だ。「早来」の昔話とやけに似てはいまいか。そう気づいてしまうと、可愛らしい童謡が一気に怪談めいて聞こえてくる。もちろんこれは偶然の符合だろうが、偶然以上の何かがありそうな気がするのは考え過ぎだろうか。ともかく、カッコウの鳴き声に〝呼ばれている〟感じを受けることはあることらしい。

*(Inoura)*

---

## 台風9号発生 －今年の台風は多いのか？～過去の統計を見てみましょう

*Meteotology*

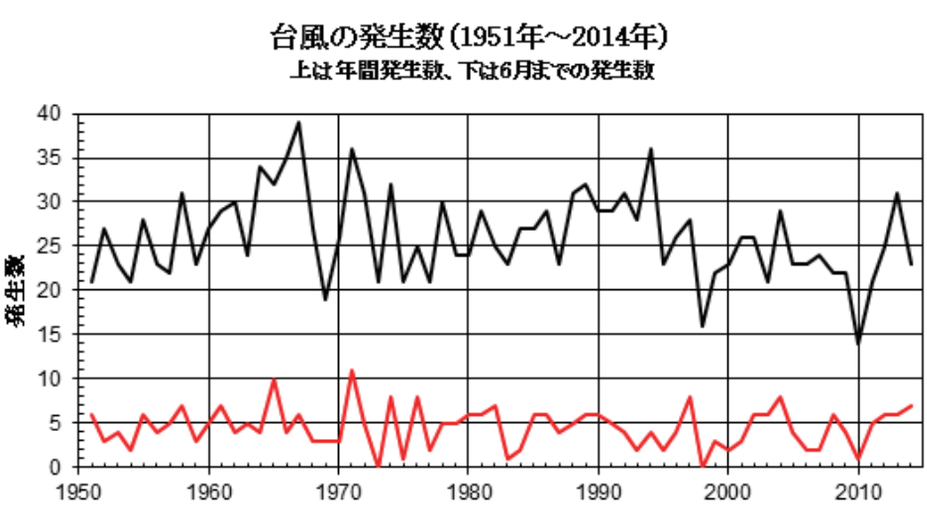
6月30日、マーシャル諸島付近（ざっくりフィリピンとハワイの中間くらいです）で台風9号が発生しました。今年は台風がかなり早いペースで発生しています。1号が発生したのが1月13日で、2013・2014年に続き3年連続の1月発生です。統計を遡ると、1月に台風が発生したのはここ3年の他に、2005・2003・2002年、その前は1992年と、1990・1989・1988・1987年の4年連続というのがありました。

1月から台風が発生すると年間台風発生数が多くなるのでしょうか？必ずしもそうではないようで、昨年は23個、一昨年は31個でした（過去30年[1985～2014年]の平均は1年当たり25.4個）。過去も目立った傾向はないのですが、先の連続した4年は1990（29個）・1989（32個）・1988（31個）・1987年（23個）で多い傾向にありました。

また、2015年の特徴は毎月コンスタントに台風が発生していることです。1月（1個）、2月（1個）、3月（2個）、4月（1個）、5月（2個）、6月（1個）です。これは過去30年にはないことで、遡ると50年前の1965年以来のことです。1965年は6月まで毎月発生し、今年を上回る合計10個のハイペースで、最終的に32個の台風が発生しました。個数だけでいうならば、1971年が6月までに11個発生（ただし2月は0個）し、統計のある1951年以降では1～6月の最高数です。

台風の発生は海面水温が26.5℃以上の海域－というのが教科書的な知識ですが、現在の西太平洋赤道域（台風の発生域）の海面水温は高いかというと、むしろ平年よりもやや低い傾向にあります。予想によれば9月にかけて海面水温は下がっていく傾向になるようです。

はたして今年は台風がいくつやってくるのでしょうか。個人的には被害がでない程度にやってきて、空気をかき回して涼しくしてくれることを期待しています。




グラフは気象庁HPのデータから作成

*(Higuchi)*

## カッコウの呼び名

*Waka*

志木高に赴任したその年に、私は授業をしながらカッコウを聞いた。それ以来なら、19年ぶりのカッコウの飛来である。そこで今回はカッコウについて書くのだが、日本の古典文学におけるカッコウについては、はっきりしたことは何も言えない。確実に「カッコウ」を指すと言えるものがないからだ。

日本で繁殖するホトトギス科の鳥は4種、すべて托卵習性を持っている。カッコウ、ホトトギス、ツツドリ、ジュウイチ、これらの名前は皆その特徴的な鳴き声を模してつけられている。「カッコウ」「ホトトギス」「ジュウイチ」は鳴き声そのままだし、ツツドリは「ポポ、ポポ」という特徴的な声が筒を叩く音に似ているのでつけられた名前だ。カッコウはユーラシア大陸、アフリカに広く分布するが、中国名「郭公」、英名cuckoo、仏名coucouその他の言語においても鳴き声をそのまま名前としているようだ。

日本では、鎌倉時代には「カッコウ」と呼ばれていたようだが、それ以前についてははっきりしていない。『萬葉集』に見られる「霍去鳥」、古典和歌に用いられる「郭公」はどちらも本来「カッコウ」と発音されるべきだが「ホトトギス」と読まれる。

暇なみ来ざりし君に霍去鳥我かく恋ふと行きて告げこそ
萬葉集・巻八・一四九八　大伴坂上郎女

(暇がないといって来なかった人に、ホトトギスよ、私はこんなにも恋しく思っていると行って告げてほしい。)

この歌の「かく恋ふ」は明らかに「カッコウ」という鳴き声を模しているので、「ホトトギス」はこの場合現在のカッコウを指すと思われる。こうした混同が起きていた可能性がある。それでは「カッコウ」はなんと呼ばれていたのか。古典に登場する「かほどり」「呼子鳥」「箱鳥」がカッコウを指すのではないか、と言われている。「かほとり」(発音は「かぽとり」)「はことり」は鳴き声を模した名だろう。カッコウの別名「閑古鳥(かんこどり)」が鳴き声に由来するのと同じだ。

大和には鳴きてか来らむ呼子鳥象の中山呼びそ越ゆなる
萬葉集・巻一・七〇・高市黒人

神南備の伊波瀬の社の呼子鳥いたくな鳴きそわが恋まさる
萬葉集・巻八・一四一九・鏡王女

をちこちのたつきもしらぬ山中におぼつかなくも呼子鳥かな
古今和歌集・巻一・春上・二九・よみ人しらず

この「呼子鳥」は『古今和歌集』中の解釈のわからない鳥の一つとされ、古今伝授の三鳥(呼子鳥・稲負鳥・百千鳥)に数えられている。「おぼつかなく」とらえどころのない声で鳴くというのは、カッコウの声のイメージどおりではあるのだが。いずれにしろ、カッコウにしかない習性を詠みこんだ歌は見つからず、八百年の謎は謎のままだ。

*(Hayami)*

---

## 初夏はトンボの季節

*Biotope*

７月になりトンボが一番見られる時季になりました。校内では、特に水辺が多い農園の田んぼ周辺で様々な種類のトンボが見られます。よく目を凝らさないと見過ごしてしまうような小さなイトトンボから、素早いグライダーのようなギンヤンマなど。みなさんもぜひ暇な時には気分転換に農園のほうをのぞいてみてください。ちなみに農園でこれまでに確認されたトンボを以下に挙げておきます。

アジアイトトンボ、クロイトトンボ、オオアオイトトンボ、ショウジョウトンボ、ナツアカネ、
アキアカネ、ノシメトンボ、クロスジギンヤンマ、ヤブヤンマ、シオカラトンボ、
オオシオカラトンボ、ハグロトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボ

*(Izawa)*

# 志木の自然[卯月(4月)皐月(5月)水無月(6月)文月(7月)]　*Plants*

先日5月23日に行われた「自然観察会」で参加者が，ふじみ野市から参加されたご家族をもって累計1,000人を超えた．一般的な市立自然科学系博物館が主催する観察会の参加状況が20名前後という実情を考えると，2007年に周辺住民の方を対象に始めたこの会が初年度で累計100名を超え，以降1回の参加者が40名を切ることがなく続いているのは有難いことである．

志木・朝霞・新座の隣接市に自然科学系博物館が一つもないため，このような会がなかなか企画されないという現状では「自然を知りたい」という地域ニーズを満たす会ともなっている．初期は本校専任教諭が解説を行っていた観察会も，現在では3年生有志によって解説が行われている（授業の一環だが…）．このような会をやらせて頂ける環境が校内にあることもまた有難いことである．

[2015年4月～2015年7月までの開花情報]

## *Grass*

*11. Apr.2015* フデリンドウ

*18. Apr.2015* ヤブジラミ, ヤブタビラコ

*26. Apr.2015* ノミノツヅリ, シロツメクサ, ウラジロチチコグサ, ハハコグサ, ツボミオオバコ, カモジグサ, ホウチャクソウ

*3. May.2015* ナガミヒナゲシ, コヒルガオ, アメリカフウロ, ムラサキカタバミ, オオアマナ, アカバナ, ウマゴヤシ, フタリシズカ, シバ, ギシギシ

*10. May.2015* コナスビ, オッタチカタバミ, ホソイ, ニワゼキショウ

*17. May.2015* ハキダメギク, ヒメジョオン, ドクダミ, ノビル, トキワツユクサ

*22. May.2015* スイレン, ムギクサ, ノアザミ, イヌガラシ, ワルナスビ

*30. May.2015* アサザ, ツメクサ, ブタナ

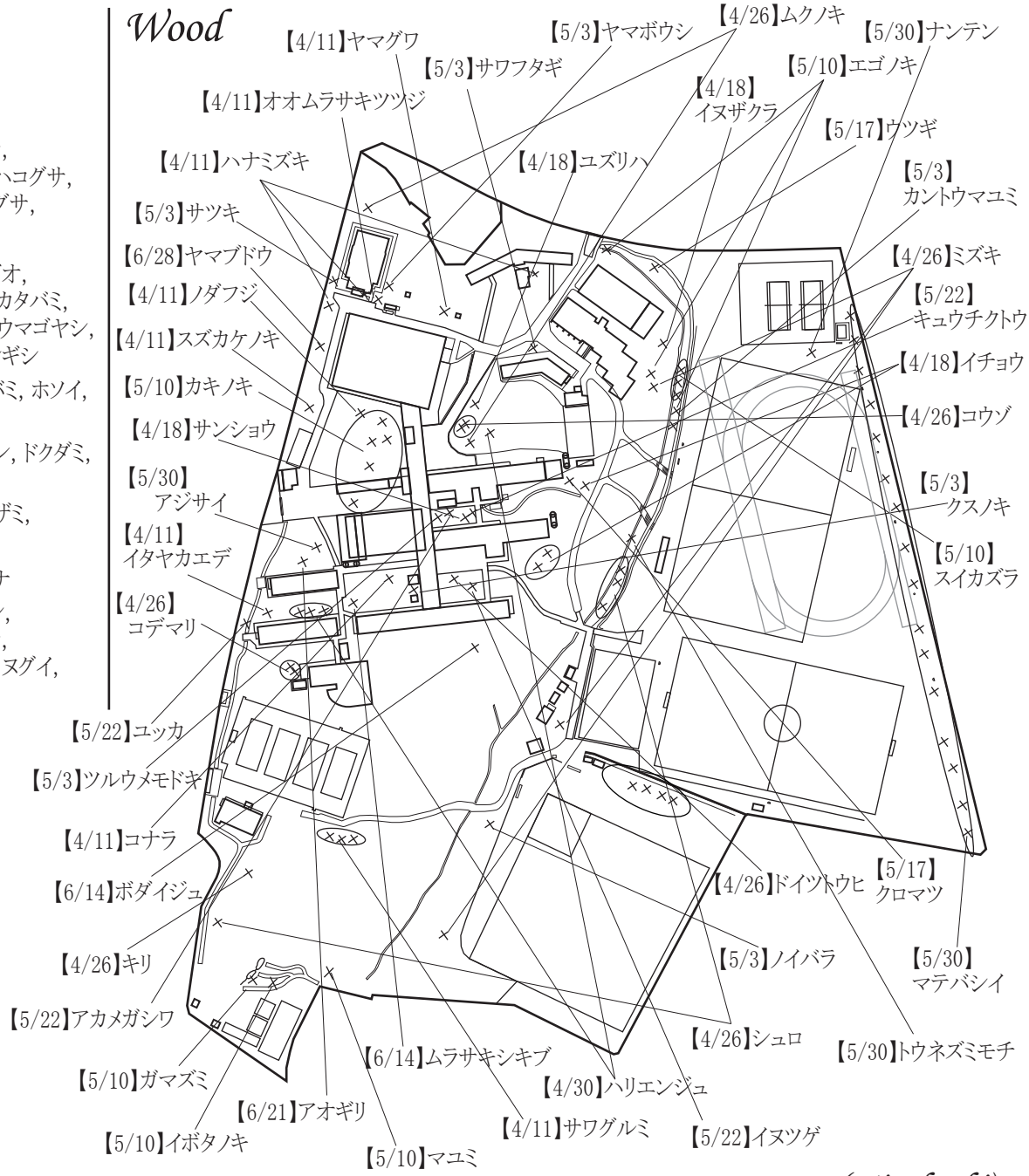
*7. Jun.2015* ハエドクソウ, ヤブガラシ, ホタルブクロ,タケニグサ, キジムシロ, ママコノシリヌグイ, チドメグサ

*14. Jun.2015* ミズヒキ, ネジバナ, イヌタデ

*21. Jun.2015* ジャノヒゲ, ミチヤナギ, ミツバ, エノコログサ, ツユクサ, サクラタデ, ヤブマオ

*28. Jun.2015* ヤブカンゾウ, ヒメガマ

## *Wood*




*(Miyahashi)*

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。
名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。


| | | |
|---|---|---|
| 執筆・担当区分 | 動物・環境 | 井澤　智浩 *(Izawa)* |
| | 鳥類・植物 | 速水　淳子 *(Hayami)* |
| | 天文・気象 | 樋口　　聡 *(Higuchi)* |
| | 植物・地質　他[&発行責任] | 宮橋　裕司 *(Miyahashi)* |
| | 編集 | 荒巻　知子 *(Aramaki)* |